

第4期 第4回麻生区区民会議 議事要旨

1 開催日時 平成25年5月20日(月)午後3時～午後5時8分

2 開催場所 麻生区役所第1会議室

3 出席者 [委員]

菅原委員長、東川副委員長、金光委員、菅野委員、村主委員、高倉委員、高瀬委員、高橋(慶)委員、高橋(庸)委員、武濤委員、田中委員、東川委員、矢野委員、山田委員、吉田委員

(欠席) 石井副委員長、加賀美委員、梶委員、久保倉委員、長谷川委員、横山委員

[参与]

尾作参与、木庭参与

(欠席) 雨笠参与、勝又参与、月本参与、花輪参与、山崎参与、相原参与、吉田参与

[事務局]

鈴木課長、白石担当係長、佐伯、藤江、麻生

[関係者]

多田区長、中山副区長、安藤区民サービス部長、澁谷道路公園センター所長、浅見保健福祉センター所長(医監)、大西保健福祉センター副所長、小林こども支援室長、猪瀬生涯学習支援課長、杉山総務課長、田中地域振興課長、山田危機管理担当課長

4 傍聴者 3人

5 議事

(1) 新任の高橋慶子委員が所属する部会について

前任の飯塚委員が属していた「若者部会」で承認を得た。

(2) 若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会の検討経過報告及び意見交換について

ア 菅野委員が子育てしやすい環境づくりの審議内容を説明し、承認を得た。

・母親たちへのアンケート結果をうけて、ヒアリングを実施している。

対象は、保育園にも幼稚園にも入っていない未就学児の子育てをしている母親、あるいはそれを支援している人達。聞く内容は、現在置かれている状況と、子育てに対する支援、行政への要望。

イ 武濤委員が芸術・文化のまちづくりの審議内容について説明し承認を得た。

・各団体に若者のテーマに沿い様々な団体にヒアリングを行う。また、その結果を踏まえて行政や文化財団などにどの様にフォローをしているかということヒアリングする。最後に、区内の大学生やお店で働いている若者を対象に意見交換を実施する。

- 若者部会に関する質問、意見なし。

(3) 安全・安心のまちづくり部会の検討経過報告及び意見交換について

村主部会長が資料をもとに説明し、承認を得た。

- ・大地震で麻生区内での死者数をゼロにするということを目標にする。まずは、専門家の意見をもとに、マンション、戸建て10戸程度を対象として、家具の転倒防止策を中心にモデル事業を実施する。モデル事業から得られた成果をパンフレットやDVDに記録し、区民へ普及啓発を行う。モデル事業のプロセスの中でモデル地区の選定が大きな鍵となる。22日の自主防災組織の役員会にてチラシを配布する予定である。

9月の区民会議フォーラムは、安全部会のテーマを中心に取り上げるが、講師は、モデル事業を指導していただく明治大学建築学科の園田眞理子先生と川崎市防災対策検討委員会の委員長で、部会テーマと同じ方向性を研究している東京大学教授の目黒公郎先生の二人にまず打診する予定である。

(主な意見)

- ・川崎市の地震対策制度やガス報知器、火災報知器の設置等の関連も検討したらどうか。
←公助としてのそのような災害対策の整備が進められており、区民会議としても十分な周知の必要はあるかと思う。ただ、今回の区民会議では、公助だけでは対応できない部分に着目していきたい。
- ・モデル事業の相手等から一人一人の災害に対する経験談等を聞いてみるのも有効ではないか。
←有効だと思う。ただし、一般的には、どんなに被害予測情報が流れていても、自分だけは大丈夫という意識が働いてしまうのが人間心理。
- ・モデル事業の対象10世帯は、どの様な集合体を想定しているのか。
←10軒がある程度地理的にまとまってほしい。
- ・区民会議フォーラムの講師の選定は部会に一任。広報の関係で6月3日の企画部会まで固めてほしい。
- ・モデル事業の周知方法は、自主防災組織よりも町内会の方がよいのではないか。
←町内会の方が全体的に浸透する可能性が高い。
←回覧をするならば、22日の自主防災組織役員会の前に開催される町会の理事会で相談した方がよいのではないか。(地域振興課長)

(4) 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

金光委員より説明し、承認を得た。

- ・区民会議フォーラムは9月は安全・安心部会、2月は若者部会が中心となって開催する。広報広聴活動に関しては、区民会議ニュースの回覧や地域メディアによるPRで、区民会議自体の認知度向上を図る。区民会議ニュース第3号は9月のフォーラムと今回の全体会議の結果、間に合えば若者部会のヒアリングを掲載する。

- 企画部会に関する質問、意見なし。

(5) 平成24年度区民会議交流会の報告について

金光委員より市長の講話を中心に報告。

- ・委員が提案されたことを、地域や自分の団体に持ち帰って実践活動につなげて、それを地域に根づかせることが、区民会議の認知度向上につながる。

(6) 平成25年度地域課題対応事業一覧について

事務局より説明。

- ・地域課題対応事業は区長権限の予算で、市の要領に定められているもの。過去の区民会議の提案もエコのまち麻生推進事業や里山ボランティア等に反映されている。

(主な意見)

- ・継続の事業の予算額は前年と全部同じか。
←継続のところも事業内容が変わるので予算額も変更となる。(事務局)
←この資料では予算額が昨年と減ったのか増えたのかわからない。

(7) 地域課題解決型提案事業「麻生区里山ボランティア事業」の継続について

事務局より説明

- ・第3期麻生区区民会議からの提案で実現した事業で麻生区地域課題解決型提案事業で今年度も採択された。チラシに「協力：麻生区区民会議」をつけるなど今後も広報の協力を検討願いたい。

(主な意見)

- ・団体名称の変更はあったのか。
←名称は変更となったが構成メンバーは以前の麻生区里山ボランティアの会と同じ。(事務局)
- ・区民会議の活動が提案から実際の活動に発展しているというのはよい。第4期の提案もこういう形でぜひ具体的なアクションにつなげていきたい。ただ、地域課題対応事業と地域課題解決型提案事業の関係が見えにくい。
←地域解決型提案事業は昨年度できたばかりの事業。幅広く受け入れることで創設された。区民会議の提案事業も、まずは、3年間試行期間という面も含めて、活用して頂ければと思う。(事務局)
←地域解決型提案事業は、実効性、公益性などの審査によって、採用される。区民会議の提案事業も、まずは計画をつくって、審査を受けて、事業を展開することが区の予算を獲得する近道なのかなと思う。

(8) 参与、区長の感想